

DMR 臨床検査薬情報担当者

研修テキストⅡ

2018年版

臨床検査医学
臨床検査学

正誤表

I 臨床検査医学

掲載頁・項目	該当箇所	誤	正
p.7 (1臨床検査医学総論)	図9-1 図中凡例	← <u>動脈血</u> ← <u>静脈血</u>	← <u>静脈血</u> ← <u>動脈血</u>
p.7 (1臨床検査医学総論)	図9-1 図中左上の2番目	上大 <u>動脈</u>	上大 <u>静脈</u>
p.10 (1臨床検査医学総論)	右欄下から3行目	<u>全面</u> から見ると	<u>前面</u> から見ると
p.13 (1臨床検査医学総論)	左欄上から12行目	glomerular <u>filtration</u> rate	glomerular <u>filtration</u> rate
p.13 (1臨床検査医学総論)	左欄下から3行目	<u>保健</u> 適応上	<u>保険</u> 適応上
p.15 (1臨床検査医学総論)	右欄上から9行目	<u>バイエル板</u>	<u>パイエル板</u>
p.17 (1臨床検査医学総論)	図26 図中最下段中央	<u>フリブリンモノマー</u>	<u>フィブリンモノマー</u>
p.18 (1臨床検査医学総論)	右欄上から2行目	(<u>オスモル</u>)	(<u>ミリオスモル</u>)
p.19 (1臨床検査医学総論)	左欄下から15行目	<u>グリコース</u> -6-リン酸	<u>グルコース</u> -6-リン酸
p.19 (1臨床検査医学総論)	右欄上から1行目	6) <u>ペントースサイクル</u>	6) <u>ペントースリン酸経路Or回路</u>
p.21 (1臨床検査医学総論)	左欄上から1行目	<u>リボゾーム</u>	<u>リボソーム</u>
p.23 (1臨床検査医学総論)	右欄上から14行目	② <u>蛋白</u> 合成の開始	② <u>タンパク質</u> 合成の開始
p.24 (1臨床検査医学総論)	左欄下から5行目	<u>基本</u> 検査 (1)	<u>基本的</u> 検査 (1)
p.24 (1臨床検査医学総論)	左欄下から3行目	<u>基本</u> 検査 (2)	<u>基本的</u> 検査 (2)

掲載頁・項目	該当箇所	誤	正
p.24 (1臨床検査医学総論)	表6および表7 キャプション下括弧書き右肩の参考・引用文献番号	* <u>8</u>	* <u>9</u>
p.26 (1臨床検査医学総論)	表8-2 表中項目「高値」の下から8番目	<u>2万μL</u> 芽球の出現	<u>2万/μL</u> 芽球の出現
p.28 (1臨床検査医学総論)	右欄上から2行目	死亡順位は、 <u> </u>	死亡順位は、 <u> </u>
p.29 (1臨床検査医学総論)	左欄上から12行目	大腸, 肺, 胃, <u>膵, 乳房</u>	大腸, 肺, 胃, <u>乳房, 肝</u>
p.30	左欄下から15行目	<u>1.27倍</u>	<u>1.28倍</u>
p.30 (1臨床検査医学総論)	左欄下から14行目	成人における <u>高血圧</u> の分類	成人における <u>血圧値</u> の分類
p.31 (1臨床検査医学総論)	左欄下から2行目	<u>境界域non HDL-C血症</u>	<u>境界域高non HDL-C血症</u>
p.31 (1臨床検査医学総論)	左欄下から1行目	<u>non HDL-Cの管理目標値は,</u>	<u>脂質異常患者のnon HDL-Cの管理目標値は,</u>
p.31 (1臨床検査医学総論)	図41 図中下左端	診察室外 <u>高血圧</u>	診察室外 <u>血圧</u>
p.35 (2循環器系)	左欄上から13行目	<u>これらは</u> 狭心症の中でも,	<u>不安定狭心症は</u> 狭心症の中でも,
p.35 (2循環器系)	図 図中項目	<u>CPK</u> <u>CPK-MB</u> <u>GOT</u>	<u>CK</u> <u>CK-MB</u> <u>AST (GOT)</u>
p.41 (3呼吸器系)	右欄上から6行目	<u>プルフェニドン</u>	<u>ピルフェニドン</u>
p.46 (3呼吸器系)	右欄下から15行目	細胞 <u>障害性</u> T細胞	細胞 <u>傷害性</u> T細胞

掲載頁・項目	該当箇所	誤	正
p.48 (4消化器系)	右欄下から10行目	<u>莖性</u>	無莖性
p.52 (4消化器系)	右欄下から1行目	細胞 <u>障害</u> 性T細胞	細胞 <u>傷害</u> 性T細胞
p.61 (6血液・造血器系)	右欄上から20行目	Virus Type 1) <u>_</u>	Virus Type 1))
p.62 (6血液・造血器系)	右欄下から13行目	(<u>成熟した著減した状態</u>)	(<u>幼若な白血病細胞と残存する成熟細胞のみで、中間の成熟細胞が著減した状態</u>)
p.64 (6血液・造血器系)	右欄下から8行目	Virus Type 1) <u>_</u>	Virus Type 1))
p.68 (7内分泌・代謝系)	右欄下から1行目	(<u>図1</u>) .	(<u>表2, 図1</u>) .
p.71 (7内分泌・代謝系)	左欄上から17行目	ガイドライン <u>2007年版</u> 」にある	ガイドライン <u>2017年版</u> 」にある
p.74 (8産科・婦人科系)	右欄下から7行目	子宮鏡検査などが <u>ある</u>	子宮鏡検査などが <u>ある</u> .
p.76 (8産科・婦人科系)	左欄下から5行目	構造異常（部分重複，部分欠失， <u>転座</u> など）	構造異常（部分重複，部分欠失， <u>転座，逆位</u> など）
p.90 (9免疫と免疫異常)	右欄下から8行目	<u>中手指節間関節</u>	<u>中手指節関節</u>
p.90 (9免疫と免疫異常)	右欄下から4行目	" <u>尺側変位</u> "	" <u>尺側偏位</u> "
p.102 (10感染症)	左欄上から11行目	ART (anti- <u>retrovial</u> therapy :	ART (anti- <u>retroviral</u> therapy :
p.109 (11がんの総論)	左欄下から1行目	<u>結合して消滅し</u> ,	<u>対消滅し</u> ,
p.114 (11がんの総論)	右欄下から6行目	利用 <u>した</u> ,	利用 <u>し</u> ,
p.115 (11がんの総論)	右欄下から3行目	<u>モノクローナル抗体 (抗体医薬品)</u>	<u>抗体医薬品 (モノクローナル抗体)</u>

掲載頁・項目	該当箇所	誤	正
p.119 (12その他)	左欄上から6行目	1999年に制定 された 世界保健機構 (WHO) 憲章の 前文 に	1998年に提案 された 世界保健機関 (WHO) 憲章の 前文 に
p.121 (12その他)	表2 表中項目「一般健康診断 (定期)」 の5番目	肝機能検査 (AST, ALT, γ-GT)	肝機能検査 (AST, ALT, γ-GPT)
p.122 (12その他)	表4 表中項目「検診項目」の左端5番目	視・触診	乳房視・触診
p.122 (12その他)	表4 表中項目「検診項目」の中央5番目	乳腺トモシン センス	乳腺トモシン セシス
p.122 (12その他)	表4 表中項目「検診項目」の左端6番目	子宮頸部細胞診	子宮頸部細胞診, 経膈超音波
p.122 (12その他)	左欄下から6行目	2015 (平成27) 年	2014 (平成26) 年
p.122 (12その他)	左欄下から4行目	年1回のストレスチェックの実施・報告が義務づけられた。	年1回のストレスチェックの実施・報告が義務づけられた (2015年12月施行) .
I 臨床検査医学 追加情報等			
掲載頁・項目	該当箇所・対応	追加情報	
p.119 (12その他)	左欄上から6行目の世界保健機関 (WHO) 憲章の前文について	この提案については, まだ審議・採択されておらず, 1948年制定のWHO憲章前文における健康の定義が適用されている (http://www.japan-who.or.jp/commodity/kenko.html) .	
p.251 (索引)	索引項目追加	CETP…72	
p.259 (索引)	索引項目削除 (中段上から20行目)	サプレッサーT細胞…82	

p.71（7内分泌・代謝系） 表4を次のとおり差し換え

差し換え前

表4 脂質異常症の診断基準（空腹時採血）

高LDLコレステロール血症	LDLコレステロール \geq 140mg/dL
低HDLコレステロール血症	HDLコレステロール $<$ 40mg/dL
高トリグリセライド血症	トリグリセライド \geq 150mg/dL

差し換え後

表4 脂質異常症の診断基準（空腹時採血）

LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症
	120～139mg/dL	境界域高LDLコレステロール血症
HDLコレステロール	40mg/dL以上	低HDLコレステロール血症
トリグリセライド	150mg/dL以上	高トリグリセライド血症
Non-HDLコレステロール	170mg/dL以上	高non-HDLコレステロール血症
	150～169mg/dL	境界域高non-HDLコレステロール血症

II 臨床検査学

掲載頁・項目	該当箇所	誤	正
p.126 (1臨床検査学総論)	左欄下から15行目	酵素 (AST, ALT, LD, ALP, y-GI , アミラーゼ)	酵素 (AST, ALT, LD, ALP, y-GPT , アミラーゼ)
p.143 (2一般検査)	右欄上から3行目	適用から 外れ 独立に算定されるようになった.	適用から 外れ , 独立に算定されるようになった.
p.145 (3血液学検査)	左欄上から5行目	「血液学検査」	血液学的検査
p.151 (3血液学検査)	左欄下から5行目および1行目	PO4 ²⁻	PO4 ³⁻
p.151 (3血液学検査)	右欄下から18行目および15行目	PaO₂	PO₂
p.151 (3血液学検査)	右欄下から17行目	PaCO₂	PCO₂
p.155 (4臨床化学検査)	左欄下から5行目	中性脂肪の割合が異なる が ,	中性脂肪の割合が異なる .
p.155 (4臨床化学検査)	右欄下から16行目	蛋白質 には 酵素活性のある酵素で病態把握に有用なものがよく測定される し , 酵素活性のない血清蛋白では,	蛋白質 では 酵素活性のある酵素で病態把握に有用なものがよく測定される . また , 酵素活性のない血清蛋白では,
p.158 (4臨床化学検査)	右欄上から2行目	anmonia	ammonia
p.159 (4臨床化学検査)	右欄上から11行目	イオン交換クロマトグラフィーでは, HbA0の巨大なピークの他にいくつかのピークが見られ, その1つはHbFであるが, その他にもいくつかのピークが見られる. これをHbA1a, HbA1b, HbA1cとよび , グルコースが結合したHbはA1cのピークに現れることが知られている.	イオン交換クロマトグラフィーでは, HbA0の巨大なピークの他に, HbFをはじめ, HbA1では, その分画であるHbA1a, HbA1b, HbA1cと呼ばれるものにピークが見られる. なお , グルコースが結合したHbはA1cのピークに現れることが知られている.
p.160 (4臨床化学検査)	左欄下から5行目	有用と 考えられるが, 現状では直接法の試薬間の測定値に差があることから注意が必要である. なお, LDL-Cについては,	有用と 考えられる. なお, LDL-Cについては,
p.168 (5免疫血清学検査)	右欄上から9行目	非競合法	競合法
p.188 (6微生物学検査)	右欄上から2行目および下から18行目	起 因 菌	起 炎 菌

掲載頁・項目	該当箇所	誤	正
p.193 (7遺伝子関連検査)	右欄上から14行目	免疫関連遺伝子再構成検査は、 <u>PCR法、LCRまたはサザンブロット法</u> により、	免疫関連遺伝子再構成検査は、 PCR法またはサザンブロット法 により、
p.194 (7遺伝子検査)	右欄上から9, 10行目	HBV-DNA定量検査法には、 <u>TMA-HPA法とreal-time PCR法、TaqMan PCR法</u> を用いたものがある。	HBV-DNA定量検査法には、 TMA-HPA法とreal-time PCR法 を用いたものがある。
p.195 (7遺伝子検査)	左欄下から2, 1行目	現在用いられているHCV-RNA定量法には、 <u>real-time PCR法、TaqMan PCR法</u> などがある。	現在用いられているHCV-RNA定量法には、 real-time PCR法 がある。
p.196 (7遺伝子検査)	右欄上から2行目	<u>結核症</u>	結核
p.197 (7遺伝子検査)	左欄上から13行目	<u>原因菌であり、</u>	原因菌の一つであり、
p.197 (7遺伝子検査)	左欄上から14行目	40%を占めている。 <u>クラミジアの核酸同定検査の導入により</u> 、抗原検査と比較して、	40%を占めている。 核酸検出検査は 、抗原検査と比較して、
p.197 (7遺伝子検査)	左欄上から21行目	クラミジアトラコマチス <u>核酸増幅同定精密検査</u>	クラミジアトラコマチス 核酸検出検査
p.197 (7遺伝子検査)	左欄下から12行目	核酸 <u>同定</u> 検査	核酸 検出 検査
p.197 (7遺伝子検査)	左欄下から14行目	<u>核酸増幅同定精密検査</u>	核酸検出検査
p.197 (7遺伝子検査)	左欄下から3行目	<u>mecA</u> 遺伝子検査	mecA 遺伝子検査
p.197 (7遺伝子検査)	右欄下から2行目～	2009年の新型インフルエンザ流行の際には、 <u>遺伝子検査を用いてウイルスの確認を迅速に行うことが可能であり、主としてPCR法による核酸増幅を行っていたが、LAMP法によるキットも販売されている。</u>	2009年の新型インフルエンザ流行の際には、 遺伝子検査を用いてウイルスを迅速に検査するPCR法による核酸増幅が主流であったが、LAMP法によるキットも販売が開始された。
p.198 (7遺伝子検査)	左欄上から17行目	(1) <u>ゲル泳動法</u>	(1) ゲル電気泳動法
p.199 (7遺伝子検査)	右欄上から4行目	現在では、核酸増幅と検出を同時に全自動で <u>行う (real-time PCR法)</u> ことが多く、遺伝子定量装置として用いられている。	現在では、核酸増幅と検出を同時に全自動で 行うこと (real-time PCR法) が多く、遺伝子定量装置として用いられている。

掲載頁・項目	該当箇所	誤	正
p.201 (8輸血検査)	表1 表中項目「血液型関連検査」の3番目	3. <u>抗体スクリーニング</u>	3. 不規則抗体スクリーニング検査
p.201 (8輸血検査)	左欄下から14行目および12行目	<u>供血者 (献血者)</u>	供血者
p.201 (8輸血検査)	右欄上から9行目	使用時にも <u>患者からインフォームド・コンセントをとるよう</u> に努めることが示されている。	使用時にも インフォームド・コンセントを行うよう に努めることが示されている。
p.201 (8輸血検査)	右欄下から12行目	<u>時</u> 、同じ血液型の血液を輸血しなければならないためである。	時 、 原則として 同じ血液型の血液を輸血しなければならないためである。
p.202 (8輸血検査)	p.202, 204, 205, 206, 211の該当箇所	Rh <u>D</u>	Rh (D)
p.202 (8輸血検査)	右欄下から5行目	<u>スライド法 (ホールグラス法)</u> が適している。	スライド法 が適している。
p.203 (8輸血検査)	図1 図中中央よりやや上	<u>被検血球10%生食浮遊液</u> を1滴滴下	10%被検血球浮遊液 を1滴滴下
p.204 (8輸血検査)	表5 表中項目「血清側の原因」の②	② 血清中の抗A, 抗B抗体価の <u>低下と欠損</u>	② 血清中の抗A, 抗B抗体価の 低下や欠損
p.205 (8輸血検査)	左欄上から5行目	<u>D</u> undeveloped	D undeveloped
p.206 (8輸血検査)	右欄上から11行目	<u>日本赤十字</u> 血液センター	日本赤十字社 血液センター
p.206 (8輸血検査)	右欄上から12行目	<u>抗体</u> スクリーニング検査	不規則抗体 スクリーニング検査
p.207 (8輸血検査)	図6 図のキャプション	(生理食塩水法→ <u>プロメリン法</u>)	(生理食塩水法→ プロメリン法の例)
p.210 (8輸血検査)	左欄下から15行目	輸血検査の分析装置は、 <u>税法上の分類では自動輸血分析器である。また</u> 、各メーカーで	輸血検査の分析装置 については 、各メーカーで
p.210 (8輸血検査)	右欄上から1行目	(2) <u>システム</u>	(2) 輸血管理システム

掲載頁・項目	該当箇所	誤	正
p.211 (8輸血検査)	左欄上から13~15行目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抗A試薬 + A1血球試薬 ・ 抗B試薬 + B血球試薬 ・ 抗D試薬 + スクリーニング用血球試薬 (D陽性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抗A血清試薬 + A1血球試薬 ・ 抗B血清試薬 + B血球試薬 ・ 抗D血清試薬 + スクリーニング用血球試薬 (D陽性)
p.216 (9病理検査)	右欄下から8行目	日本適合協会	日本適合性認定協会
p.218 (9病理検査)	右欄上から3行目	病歴 紹介	病歴 照会
II 臨床検査学 追加情報等			
掲載頁・項目	該当箇所	追加情報	
p.127 (1臨床検査学総論)	右欄下から1行目のPOCTガイドライン第4版について	2018 (平成30) 年6月にPOCT第4版が発行されている。	

巻末資料

掲載頁・項目	該当箇所	誤	正
p.235 (巻末資料)	参考13 表中項目「定期検査 (A類疾病)」の「不活化ワクチン」の1番目	Hib (インフルエンザ菌 B 型)	Hib (インフルエンザ菌 b 型)
p.240 (巻末資料)	参考22 表中項目「検査項目」の「血液検査」の5番目	T細胞系表面 マ ーカ	T細胞系表面 マ ーカ ー
p.240 (巻末資料)	参考22 表中項目「検査項目」の「血液検査」の6番目	サイトカイン	サイトカイン類
p.240 (巻末資料)	参考22 表中項目「検査項目」のイムノグロブリンAの「評価内容」	交感神経活動	免疫能
p.240 (巻末資料)	参考23 欄外の引用・参考文献	伊藤 幾 一	伊藤 機 一